

つながる

Tsu-na-ga-ru

4月号 2021 April No.05



SPECIAL REPORT

中日新聞「リンクト」
LINKED
plus+
病院を
知ろう

心臓病に対する 先端治療から予防まで。

循環器内科特集

CONTENTS

- 1 治療を学ぼう
- 2 チーム医療を知ろう
- 3 地域医療を学ぼう!
- 4 最新TOPICS
- 5 HOSPITAL NEWS

院長メッセージ

当院は令和2年10月、大動脈弁狭窄症に対する新しい治療法であるTAVI(タビ: 経カテーテル大動脈弁植え込み術)の実施施設に認定され、着実に症例を重ねてきました。今号は、その新しいTAVI治療を中心に、循環器内科の医療体制をご紹介します。入院患者さんの心臓病を早期治療に繋げる〈心不全サポートチーム〉の取り組みについてもご案内します。



SPECIAL REPORT

心臓病に対する 先端治療から予防まで。

循環器内科特集

見落としがちな心臓病の兆しを
いち早く発見し、適切な治療に繋げる。

CHAPTER 01 大動脈弁狭窄症に対する TAVI治療をスタート。

令和3年1月、岡崎市民病院のハイブリッド手術室(手術台と心・血管X線撮影装置を組み合わせた手術室)に、循環器内科医師をはじめ、看護師、臨床工学技士、診療放射線技師ら多職種のエキスパートが集結。心臓弁膜症を患う患者(80歳代、女性)に対し、同院で3例目となるTAVI(タビ:経カテーテル大動脈弁植え込み術)が施行された。この治療は、太もものつけ根などの血管からカテーテル(細い管)を通して、人工弁を心臓まで運び、留置するもの。現在、西三河南部東医療圏でTAVI治療を行っているのは、同院だけである。令和2年10月、経カテーテル的大動脈弁置換術関連学会協議会よりTAVIの実施設に認定。その後、11月に第一症例を行い、順調に実績を重ねてきた。「平成25年にハイブリッド手術室を増設した頃から、いつか当院でもTAVIを行えるようにしたいと考え、少しずつ準備を進めてきました。治療に関わるスタッフ全員が知識と技術を磨き、チーム医療の質を高めています」。そう語るのは、TAVI治療を牽引する循環器内科統括部長の田中寿和である。

心臓弁膜症は心臓の弁のいずれかに異常が起きてしまう病気の総称である。とくに高齢者に多く見られるのは、大動脈弁が硬くなって癒着し、開きにくくなり、

CHAPTER 02 多職種・多施設と連携し、 市民の心臓を守っていく。

TAVI治療の実績を着実に重ねる岡崎市民病院。しかし、「TAVIは、火事が起きたときの火消しに過ぎない」と、田中は言う。「大切なのは、いかに心臓病という火事を出さないようにするか、また、火事が起きたとしてもすぐ消火し、くすぶっていない火を完全に消すことが大切なのです」。

そのために同院が取り組むのが、病棟を横断する(心不全サポートチーム)の活動だ。循環器内科の医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士などが週1回、各病棟をラウンド。別の疾患で入院している患者の既往歴や心電図のデータなどをチェックし、心臓病の治療が必要な人を探し出している。「実際にこれまで、整形外科で手術を受けた方が、実は大動脈弁狭窄症だったという事例もありました。また、狭心症や不整脈を患っていても、適切な薬を飲んでいない人もいました。心不全サポートチーム

血液の通り道が狭くなる(大動脈弁狭窄症)だ。従来、この病気になると、心臓と肺の機能を代行する人工心肺装置を用いて心臓を一時的に止め、石灰化した大動脈弁を切除して人工弁に置き換える手術を行っていた。しかし、この手術は、体への負担が大きい。そのため、心臓以外の病気を抱えていたり、体力が低下した高齢者には、適用が難しかった。「TAVIが導入され、これまで手術を諦めていた高齢の患者さんも、大動脈弁狭窄症を根本的に治す選択枝が生まれました。TAVI治療を受けた患者さんはみんな、これまで苦しんでいた息切れ、胸の痛みなどから解放され、アクティブな日常生活を取り戻していらっしやいます」と田中は手応えを語る。

COLUMN

●TAVIは、体力の低下した高齢患者などが対象の治療法である。この治療の適用を慎重に判断するため、岡崎市民病院では週1回、循環器内科と心臓血管外科の医師が顔合わせ、入院患者の治療法を検討している。

●また、TAVI治療当日は、万一合併症が起きた場合に備え、心臓血管外科医が即座に外科的手術に切り替えられるよう、スタンバイしている。この、診療科を超えた緊密な連携が同院の高度な医療の質を担保している。

の活動を始めてから、必要な患者さんを早期治療に結びつけられるようになったと思います(田中)。

さらに、田中が構想するのは、こうした心臓病の早期発見の取り組みを、地域の多施設へ広げていくことだ。「実は、高齢になると、息切れや動悸などの症状が出て、年だから仕方ないと見過ごすことが多いんです。また、心臓病の多くは、動脈硬化をはじめとする生活習慣病からもたらされます。そうした早い段階で心臓病のリスクを見つけて、コントロールすることができれば、適切な時期に最善の治療を提供することができます。そのために、診療所の先生方との連携を一層図り、岡崎市全体で心臓病患者さんの早期発見・早期治療の仕組みを作っていきたいと考えています」。

心臓病に対する最新の治療を提供するだけでなく、心臓病を予防するために、多職種・多施設の連携を深めていく。同院はその先頭に立ち、地域一丸となって岡崎市民の心臓を守っていく構えだ。

BACKSTAGE

高齢化に伴い、増える 心臓病を救うために。

●超高齢社会を迎え、心臓弁膜症や狭心症など、何らかの心臓病を抱える患者が大幅に増加している。その状況を「心不全パンデミック」と呼び、警戒する気運が高まっている。

●そうした地域のニーズに応え、岡崎市民病院は心臓病のリスクのある人をいち早く発見するために、病院内にとどまらず、地域との連携を模索している。診療所と病院が一体となり、心臓の健康を守ろうとする取り組みに、今後も注目していきたい。



治療を学ぼう

今回のテーマ

TAVI(経カテーテル大動脈弁植え込み術)

TAVI(タビ)とは?

カテーテルを用いて人工弁を留置する、
心臓弁膜症に対する新しい治療法です。

TAVIの実施施設として 着実に実績を重ねています。

超高齢社会の進展に伴い、心臓弁膜症のなかでも、大動脈弁狭窄症が増えています。この病気は、心臓の出口にある大動脈弁が硬くなって開かなくなり、心臓から十分な血液を送り出せなくなるもの。TAVI(タビ:経カテーテル大動脈弁植え込み術)は、カテーテルと呼ばれる医療用の管を使って、その硬くなった大動脈弁の代わりになって働く人工弁を留置する新しい治療法です。

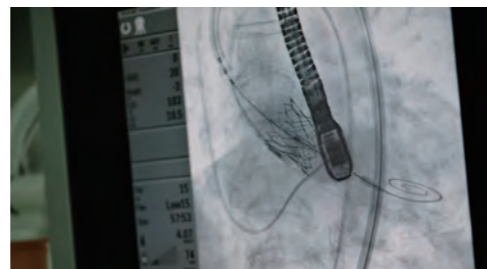
当院は令和2年10月、手術実績、設備機器、人員などの施設基準を満たし、TAVIの実施施設に認定されました。これは愛知県内で13番目、西三河で2番目、西三河南部東医療圏では初めての認定になります。そして、令和2年11月30日に、TAVIの第一症例目を施行。その後も順調に実績を重ねています。



外科的手術は難しい方が TAVIの治療対象です。

大動脈弁狭窄症の根本的な治療は、これまで人工心肺を用いて心臓を止めて行う外科手術しかありませんでした。しかし、手術は体への負担が大きく、運動能力の低下した高齢の方や呼吸器疾患などの合併症を持つ方には適用することはできませんでした。

TAVIは、そのようにこれまで外科手術を諦めていたハイリスクの方々を対象にした治療法です。脚のつけ根などからカテーテルを挿入し、ステント(金属製の網目模様の筒)と一体化した人工弁で、狭くなった大動脈弁を押し広げ、留置します。胸を大きく切開する外科手術とは違い、治療後の回復も早く、速やかに退院していただけます。退院後は、大動脈弁機能が大幅に改善しますから、治療前にはできなかった趣味や活動を楽しんでいただけます。



チーム医療を知ろう

今回のテーマ

心不全サポートチーム

心不全にさせない、心不全を悪くさせないために、
多職種チームで患者さんを支えます。

多職種が一丸となって、 心不全患者さんをサポート。 重症化と再発を予防します。

心不全とは、病気などの影響で心臓のポンプ機能が低下し、全身にさまざまな症状が引き起こされた状態のことです。一度発症すると基本的に完治せず、改善と悪化を繰り返しながら徐々に進行し、命を縮めます。そのため、心不全の治療では、できるだけ早くから専門治療と生活習慣の改善・管理を行い、悪化させないようコントロールし続けることが大切です。

当院では、そうした心不全の重症化や再発を予防するため、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、臨床工学技士、事務職などの多職種がチームを組み、連携して患者さんをサポートしています。具体的な活動としては、病棟看護師の業務支援、チームカンファレンスによる事例検討、チームによる院内回診、認定看護師による心不全看護外来などです。



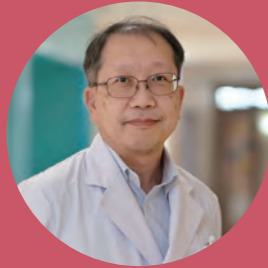
循環器センターはもちろん、 病院全体、地域全体を見据えた 幅広い活動を行っています。

当院の心不全サポートチームは主に3つの役割を担っています。1つ目は循環器センターに入院されている心不全患者さんの再入院予防。入院期間中の治療・教育はもちろん、病院が作成した「心不全ポイント管理手帳」というツールを活用しながら、患者さんが安心して自宅療養を行えるよう支援しています。2つ目は循環器センター以外に入院している心不全患者さんの重症化予防。院内から広く心不全が疑われる患者さんの情報を集め、早期にチームが介入することで重症化を予防しています。3つ目は緩和ケア。重症心不全患者さんの療養生活の質を高めるため、心身両面から支援しています。

これらの他にも、心不全に対する正しい理解を広げるため、院内職員の教育や、地域向けの教育・啓発活動にも力を入れています。



Doctor's message



循環器内科 統括部長
田中 寿和

循環器に精通した多職種から成る チームで質の高い治療を提供します。

TAVI治療の対象は高齢の方や合併症を持つ方などに限られます。そのため当院では、循環器内科と心臓血管外科の医師が十分に議論し、患者さんに適した治療を選択しています。

また、実際の治療では、医師だけでなく、看護師、臨床工学技士、診療放射線技師など多くのスタッフが関わります。とくに、この治療

は70歳代以上の方が対象になることが多く、管理栄養士が栄養不足にならないよう気を配ったり、リハビリテーションスタッフが運動機能や嚥下(飲み込む力)機能が低下しないよう、きめ細かくサポート。患者さんが一日も早く元の生活を取り戻せるよう、チーム全員の力を結集して取り組んでいます。



Staff's message



心不全サポートチーム
慢性心不全看護認定看護師
細田 紗也香

心不全患者さんを支援するため、 今後も、さらに成長を続けます。

当院では、令和元年に心不全サポートチームができる前から、数人の有志を中心に心不全の重症化・再発予防に取り組んできました。当時は、マンパワーの問題もあって限られた範囲での活動でしたが、チームになった今、活動の質・量ともに大きく成長しています。

令和2年度は、心房細動への対応力強化を目標に活動をしていました。不整脈の一種

である心房細動は、心不全の原因になるだけでなく、脳梗塞のリスクも高める疾患。早期にチームが介入することでそうしたリスクの軽減をめざしています。

当チームは今後も、心不全を抱える患者さんの入院療養・在宅療養をサポートできるよう成長を続けます。地域の皆さんには、ぜひ安心して当院を受診していただければと思います。



地域医療を学ぼう!

地域連携パス

複数の医療機関が診療計画を共有することで、患者さんが一貫した治療を切れ間なく受けられるようにします。

✓ 共通の診療計画書に基づき、地域医療機関が連携して治療します。

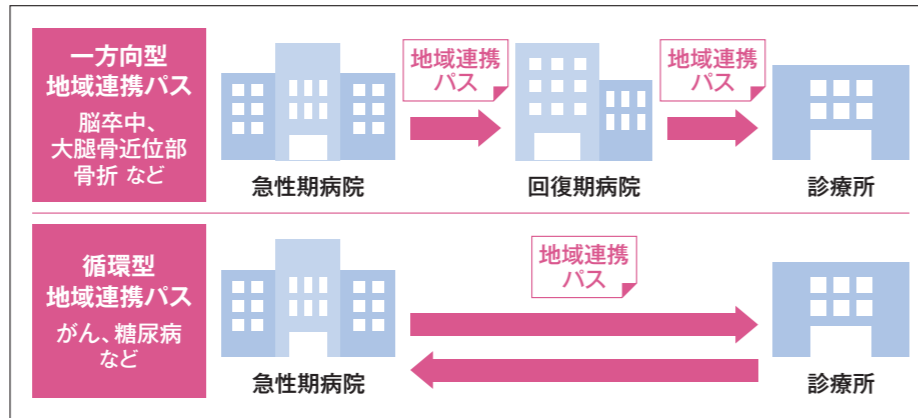
プロジェクトを進める場合、多くの人々が工程をスケジュール化して進行を管理すると思います。これは医療の世界でも同じで、病院は入院患者さん一人ひとりにクリニカルパスと呼ばれる診療計画書を作成し、その計画に基づいて治療を行っています。

クリニカルパスは、通常、1つの医療機関における治療計画を定めるものです。急性期病院から回復期病院

に転院し、退院後は診療所で治療を続ける...というケースには使えません。そうした場合には必要になるのが「地域連携パス」です。地域連携パスは複数の医療機関に共通の診療計画書のことで、施設の壁を超えたスムーズな治療を可能にします。

✓ 病気の特性に応じた、2種類の地域連携パスがあります。

地域連携パスには「一方向型」と「循環型」の2種類があります。一方向型は、急性期病院から回復期病院、そしてかかりつけ医というように、一方通行で流れる診療計画書です。脳卒中や大腿骨近位部骨折などでよく用いられます。これに対し循環型は、急性期病院とかかりつけ医を行き来するような診療計画書のこと。代表的な疾患はがんや糖尿病です。



岡崎市民病院では?

患者さんが安心して治療を受けられるよう、多様な疾患に対し地域連携パスを活用しています。

当院では、地域連携パスを積極的に活用しています。今は、脳卒中、大腿骨近位部骨折、がん、糖尿病、慢性腎臓病などの疾患が対象ですが、地域医療機関の役割分担と連携が推進されるなか、今後も適用疾患は広がっていくと思います。

その1つが心不全地域連携パスです。心不全の治療を行う上では「いかに自宅療養中に悪化させないか」が重要になります。そしてそのためには、当院と地域の診療所が連携して患者さんを支えていかなければなりません。当院では現在、心不全サポートチームが中心となって、心不全患者さんに対

する循環型の地域連携パスを模索しています。すでに原案は完成しており、今後少しずつ運用しながら地域の先生方のご意見をうかがい、ベストな形に仕上げていく予定です。



プラスα ▶ 運動不足解消③ 家の周りを散歩する、子どもや孫と遊ぶなど、日常生活活動のなかで運動量をアップ。

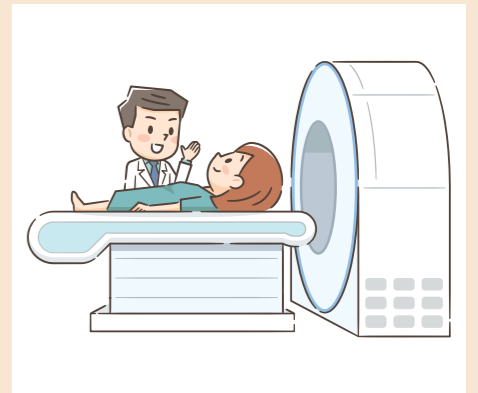
TOPICS

TOPICS 01

「医療被ばく低減施設」の認定取得をめざして活動中。

「医療被ばく低減施設」は、公益社団法人 日本診療放射線技師会が行っている認定施設です。当院では、放射線診療の質の向上をめざす一環として、2022年度の認定取得をめざして準備を進めています。

現在、進めている準備は、検査部位ごとの被ばく線量のデータを集め、医療被ばくガイドラインと比較する作業。被ばく線量が高い場合、どうすれば下げられるか仔細に検討しています。医療技術局に属する診療放射線技師は、今後もこうした現状調査と自己評価をコツコツと積み重ね、来年度、書面審査に申請後合格し、サーベイヤー(評価調査者)の訪問審査を受ける予定です。検査の質を担保した上でさらに被ばくを低減するために、診療放射線技師たちのチャレンジは続きます。



TOPICS 02

岡崎市民病院 Web市民公開講座を開催。254名の皆さんにご参加いただきました!

令和3年2月27日(土)に、Web市民公開講座を開催しました。当講座は、コロナ禍でも市民の皆さんに正しい健康情報や病院の知識をお伝えしたいと、中日新聞LINKED主催、岡崎市民病院共催でWebセミナー形式にて実施したものです。当院の医師が講師を務め、病気予防や療養生活に役立つ情報をご紹介します。チャットによる質問コーナーなども設け大変好評でした。

ご参加いただいた皆さんありがとうございました。

今すぐ視聴できる! Webセミナー録画配信

録画版Webセミナーを、期間限定で配信しています。ぜひご視聴ください。



視聴はこちらから

講座 01

さあ、のどを鍛えよう! のどトレ ~美味しく食べるために~
摂食嚥下栄養サポートチーム 言語聴覚士 長尾恭史(左) 理学療法士 小田知矢(右)



講座 02

歳とともに忍び寄る心臓弁膜症
循環器内科 統括部長 田中寿和



講座 03

乳がん検診で異常を指摘されたら
乳腺外科 統括部長 村田 透



20分で聞けちゃう! 旬の健康情報

エフエムEGAO「イブニングワイド」で当院の医療スタッフが健康情報を発信!

エフエムEGAO「イブニングワイド」の「いまどき旬」コーナー(18:00~)では、月に1回当院の医療スタッフが出演しています。4月~6月は、新たに開設した緩和ケア病棟のお話、コロナ下での出産、高齢化で増えている大動脈弁狭窄症について、各診療科の統括部長がお話します。ぜひ、ご視聴ください。
※出演者・タイトル等は変更となる場合があります。

「FMおかざき」が4月1日から名前も新たに! エフエム EGAO (76.3MHz)



これまでの放送内容は こちらから!



放送予定

- 令和3年 4月22日(木) 終章を生きるための緩和ケア病棟 緩和ケア内科 統括部長 橋本 淳
- 5月20日(木) コロナ下でのお産の状況と安全・安心なお産をめざして 産婦人科 統括部長 榎原克巳
- 6月24日(木) 高齢化に伴い増加する「大動脈弁狭窄症」とは? 循環器内科 統括部長 田中寿和

プラスα ▶ 運動不足解消④ 電車やバスではなるべく立つ、階段を積極的に使うといったことを習慣づけましょう。



8階南病棟が緩和ケア専門の病棟として 4月1日、オープンしました。

昨年9月の市立愛知病院の緩和ケア病棟の閉鎖に伴い、当院では13床の緩和ケア病床を運営してきましたが、この度、20床の緩和ケア専門病棟(8階南)として整備しました。

緩和ケア病棟の役割は大きくわけて四つあります。一つは症状をコントロールするための一時入院、二つめは在宅療養環境を整えるための一時入院、三つめはご家族の介護疲れを軽減するためのレスパイト入院、そして、最後に、病状が進行してご自宅の生活が難しくなったときの入院です。当病棟では緩和ケア内科の医師3名を中心に、多職種スタッフが集結し、専門的緩和ケアを提供していきます。

緩和ケア病棟
詳しくはこちらから

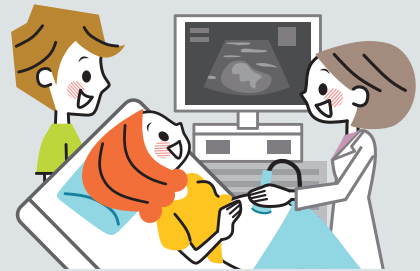


通常分娩

ハイリスクの妊婦さんだけでなく、一般的な分娩も安全にサポート。

当院は、西三河南部東医療圏の地域周産期母子医療センターとして、ハイリスク出産に対応しています。そのため、通常の出産は扱っていないと思われがちですが、実際は幅広く対応しています。

当院の特色は、産科と小児科の一貫した高度な医療体制です。分娩は何らかの危険を伴うもので、ごくまれに、分娩後の大出血や赤ちゃんの急変が生じることがあります。そうした緊急時にも、当院なら速やかに対応できます。また、優秀な助産師が多いことも当院の強みです。妊娠中から産後まで切れ目なく必要なアドバイスを提供し、妊産婦さんの精神面をきめ細かく支えています。



動画コンテンツも配信中!
ぜひご覧ください。



病院広報誌 特設サイト

つながる
Tsu-na-ga-ru

こちらから



地域の皆さんや連携機関の皆さんと「岡崎市民病院」を情報で繋ぐ、広報誌連動型コミュニケーションサイト。ぜひご覧ください。

LINE〈公式〉アカウント

病院広報誌「つながる」のLINE〈公式〉アカウントを開設しました。QRコードから「友だち追加」をお願いいたします。



岡崎市民病院
OKAZAKI CITY HOSPITAL

〒444-8553 岡崎市高隆寺町字五所合3番地1
TEL 0564-21-8111 <https://www.okazakihospital.jp/>

つながる
Tsu-na-ga-ru

2021
No.05 4月号

発行責任者/院長 早川文雄 発行/岡崎市民病院 広報戦略チーム
記事提供/中日新聞広告局 編集協力/プロジェクトリンク事務局 発行/2021年4月